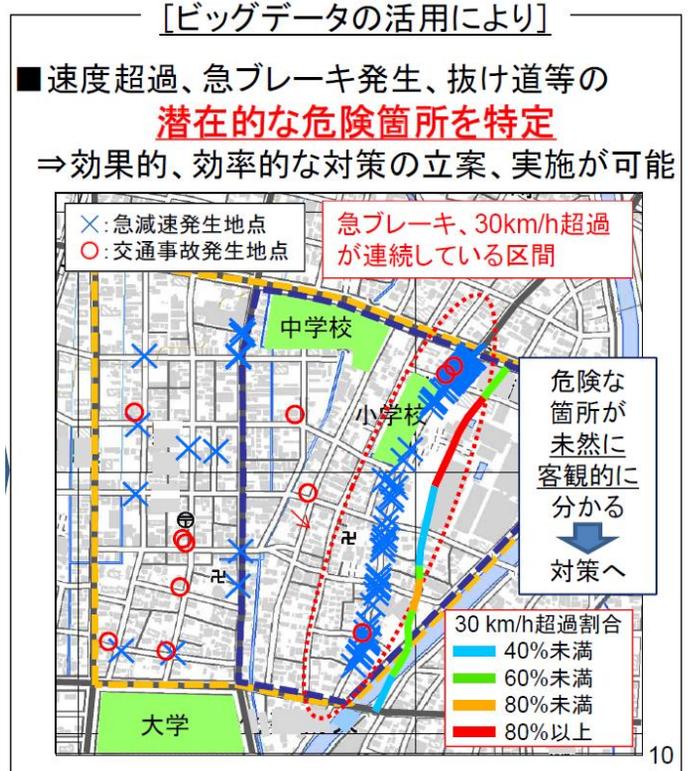


この度、四万十市、中村河川国道事務所、高知県警察、高知工科大学が連携し、生活道路の交通安全に係る新たな連携施策「ゾーン30プラス」の整備に向けた実証実験を行うこととしました。

生活道路対策エリア登録での取組み

- ビッグデータ(ETC2.0)の活用により潜在的な危険箇所を抽出
- 潜在的な危険箇所と顕在化している事故を組み合わせ
対策案を検討
- 関係者(道路管理者・警察・小中学校関係者等)
により意見交換し、対策案を策定



国土交通省が所有するビッグデータ(ETC2.0)を活用することにより、速度や経路などのデータを得ることができ、地区における課題を定量的に分析することができます。

「ETC2.0」とは

高速道路の自動料金収受及び実際に走行している自動車の挙動データ(急減速、急ハンドル)、速度、経路データが収集できるシステムです

1) 対策エリア概要・課題

国土交通省中村河川国道事務所より、提供資料（抜粋）

- 中村小学校区では平成28年1月に、最高速度30km/hの区域規制「ゾーン30」を施行した。
- ゾーン30 施行後においても、エリア内で**7件の死傷事故**が発生している。
- 特に中村小学校と中村中学校に挟まれた生活道路(南北)において、**子どもの重大事故を含む死傷事故が多発**しており、交通安全の確保が地域における喫緊の課題となっている。



2) 交通事故発生状況

- 中村小学校と中村中学校に挟まれた**生活道路(南北)**で事故が多発している。
- 中でも**南北方向の自動車と東西方向の自転車の出会い頭事故**が多い(5件中4件、**こどもの重大事故**含む)。
- 出会い頭事故が発生している交差点はいずれも**東西方向の一時停止制御交差点**であり、**南北道路が優先**となっている(従道路側に「止まれ」の規制標識、路面標示あり)。



3) ETC2.0 分析による課題認識の検証、潜在的な危険箇所の抽出の結果

(1) 速度30km/h以上の割合

○事故が多発している中村小学校と中村小学校に挟まれた生活道路(南北方向)で、速度30km/hを超えて通行する車両の割合が高い。



【出典】1. 標高点データ: ETC2.0プローブデータ(H30.10~H30.12)
2. 背景地図: 国土地理院 ※ゾーン30はH28.11に実施